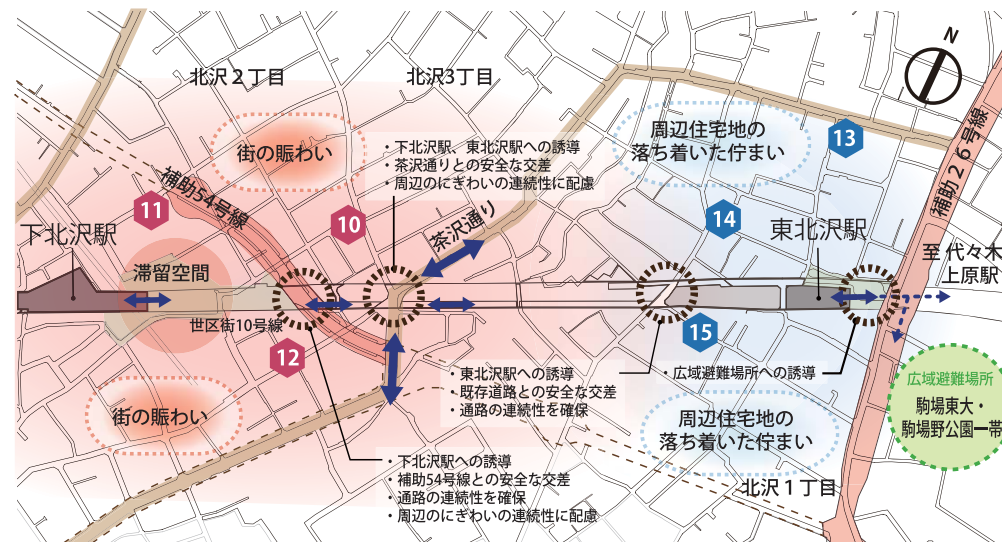
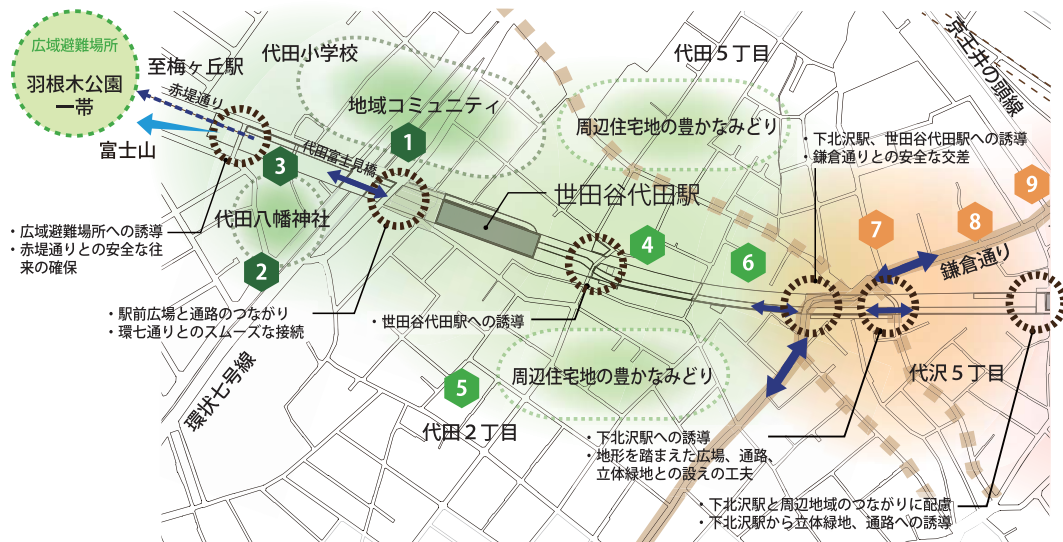


第2章 街の特徴

2-1 街の特徴を活かすための配慮事項



ゾーンA (世田谷代田駅西側)

「地域コミュニティを育む」ゾーン



1 自動車通行量の多い交通の要衝となっています。



2 代田小や代田八幡神社等、地域コミュニティの場が存在します。



3 台地上の地形に位置し、富士山を眺望することもできます。

ゾーンB (世田谷代田駅～鎌倉通り付近)

周辺住宅地と調和した「豊かなみどり」のゾーン



4 ランドマークとなる高木も多い、みどりの豊かな地域です。



5 低層住居系地域のため、静かな環境の住宅地が広がっています。



6 店舗は多くありませんが、個性的な兼用住宅が点在しています。

ゾーンC (鎌倉通り付近～下北沢駅)

地形を活かした「立体的なみどり」のゾーン



7 駅と駅の中の谷地部分が、道路の結節点となっています。



8 起伏ある地形が、街に変化を与えてくれます。



9 低層住宅地の静寂と下北沢駅付近の賑わいが共存する地域です。

ゾーンD (下北沢駅～茶沢通り付近)

賑わいの拠点となる「シモキタ」ゾーン



10 店先を利用した、工夫されたみどりが目を引きます。



11 商店の主な対象は歩行者で、各店舗が個性的に店先を演出しています。



12 細かな道が交差する辻々では、角地も効果的に使われています。

ゾーンE (茶沢通り付近～東北沢駅)

周辺住宅地と調和した「潤いある暮らし」のゾーン



13 都心に近いにも関わらず、落ち着いた住宅地が広がっています。



14 敷地を有効に使ってみどりを育てる工夫が感じられます。



15 変化に富んだみどりが通りを演出しています。

第2章 街の特徴

2-2 公共空間のデザイン事例 『世田谷デザインコレクション』

世田谷区では、これまでも施設間のデザイン調整や区民参加により、ちょっとした工夫をすることで、楽しく歩いて、のんびりくつろぎ、愉快地集える街角の魅力づくりを進めてきました。ここでは、そんな街の特徴をつくり出すデザインを紹介します。

用賀プロムナード

Yoga

世田谷美術館の行き帰りの1 km以上の道のりを楽しく歩いてもらうため、「歩く・感じる・楽しむ・憩う」をコンセプトに、歩く人の快適さとアート感覚に富んだ楽しい道を目指したのが、用賀プロムナードです。

かつて流れていた水路を歩道のデザインとして活用したり、みちの広場、みちのギャラリー、みちのホールなど、新しく楽しい道路空間をつくりだしています。



みどりに囲まれた瓦の道（みちのホール）



チェス盤調の舗装とベンチ（みちのサロン）

え〜ためぎです。なにか



かつての水路のイメージを再現



様々なベンチとモニュメント

梅ヶ丘駅界わい

Umeगाoka

梅ヶ丘駅周辺地区では、昭和59年から「ふれあいのあるまちづくり」に取り組み、住民と区が話し合いながら研究を重ね、共同作業を通して“やさしさ”を追求してきました。このプロジェクトは、「参加と福祉」の視点からまちづくりに取り組んだはじめての事例です。

段差をなくし、色彩や形状をデザインするなど、だれもが安全で快適に歩ける歩道空間を整備することで「やさしいまちづくり」が進められてきたエリアです。



豊かな色彩でデザインされた歩道空間



緑道の屋根つきベンチ



曲線的な植栽枦



段差のない交差部分

弦巻プロムナード

Tsurumaki



学校と通りを結ぶ空間



水道管を活用した車止め



鉄分いっぱい噴水

小学校と教育会館という教育の場に一体感を持たせるため、かつての水路を活かしながら整備したのが、弦巻プロムナードです。

教育会館に訪れる様々な人がコミュニケーションを図れる、楽しい仕掛けがあります。通路には、生物や植物にふれ合えるようにいろいろな種類の樹木を植えたり、池は魚が棲みやすく、人も水際まで入れる構造としています。

道の脇に花。通称“花の散歩道”